

# 焼き芋向けのさつまいもの生産・販売

なめがた農協(茨城県)

## 取組の概要

- JA、生産者、仲卸業者、小売店が協力し、スーパー店舗内に電気オーブンを設置することによる焼き芋販売を開始。
- さつまいものデンプン含量、品種により出荷時期を変える取組、定温貯蔵庫の活用、焼き方の工夫などにより美味しい焼き芋を販売し、さつまいもの販売金額が増加。

## 事業化(プロジェクト化)成功のポイント

### 1 焼き芋向けのさつまいもの生産・販売

- ① 平成10年頃から家庭調理の減少等によりさつまいもの消費が落ち込み、農家経営も悪化した。このため、高価で取引される「焼き芋」に着目し、JA、生産者、仲卸業者、小売店が協力し、スーパー店舗内に電気オーブンを設置することにより焼き芋販売を開始。
- ② 当初、「おいしくない」「うまく焼けない」等のクレームが多発したことから、生産部会、JA、県普及員などからなる「茨城県カンショ技術体系化チーム」を設置し、焼き芋をおいしく焼く技術開発、味に関係する成分の分析、栽培技術の確立、貯蔵の研究など「味」の向上対策を実施。
- ③ 「味」の向上対策を踏まえ、さつまいもの生産圃場をデンプン含量別にマッピングし、さつまいものデンプン含量により出荷時期を変える取組、「紅優甘」、「紅まさり」、「紅こがね」の3品種をリレー出荷することや定温貯蔵庫の活用により一定レベルの食味のさつまいもを年間を通して出荷する取組、品種・時期・大きさごとに焼き時間を変える取組などを実施することにより、消費者の信頼を勝ち得て、「スーパー店舗内焼き芋販売」は瞬く間に普及し、さつまいもの販売金額が増加。

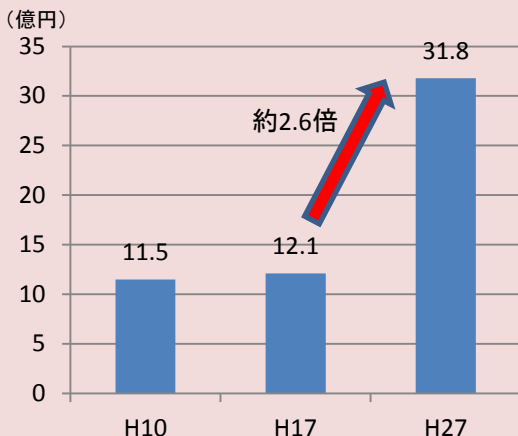
### 2 6次産業化の推進

JA、生産者、食品企業が出資した法人が、廃校した小学校を活用し、おいもについて楽しく学べるミュージアム、大学芋の加工施設、レストラン、お土産コーナーなどの施設からなる農業のテーマパーク「なめがたファーマーズヴィレッジ」を平成27年10月に設置し、さつまいもの消費拡大、食育の推進、観光客の増加、雇用拡大等さつまいもを通じて地域に貢献。

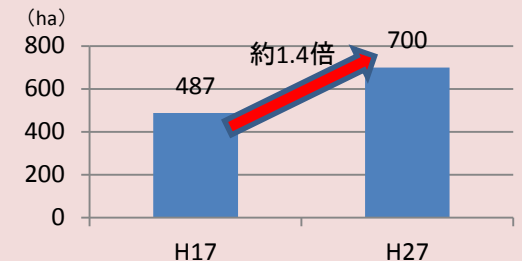
※ JAなめがた甘藷部会連絡会は、カンショを軸とした地域づくりと農家所得の向上につながっていること等が高く評価され、第46回日本農業賞大賞を受賞。

## 農協のメリット・農家のメリット

### <かんしょ販売金額>



### <かんしょ栽培面積>



### <かんしょ販売単価>

